

第七十四回帝國議會 人事調停法案委員會 議錄(速記)第七回

付託議案
人事調停法案(政府提出)
滿洲國ニ於ケル領事官ノ裁判ノ廢止ニ關スル法律案(政府提出)貴族院送付

會議

昭和十四年二月十五日(水曜日)午後一時四十分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 牧野 賤男君

理事古島 義英君 理事伊藤 五郎君

理事江原 三郎君 理事崎山 嗣朝君

野田文一郎君 一松 定吉君

齋藤 直橋君 小畑虎之助君

篠原 義政君 山本 芳治君

石坂 繁君 菊地養之輔君

田川大吉郎君

二月十四日滿洲國ニ於ケル領事官ノ裁判ノ廢止ニ關スル法律案(政府提出、貴族院送付)ノ審查ヲ本委員ニ付託セラレタリ

出席國務大臣左ノ如シ

司法大臣兼逓信大臣 鹽野 季彥君

出席政府委員左ノ如シ

司法政務次官 倉元 要一君

司法參與官 濱野徹太郎君

司法省民事局長 大森 洪太君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

人事調停法案(政府提出)

○牧野委員長 是ヨリ會議ヲ開キマス、人事調停法案ノ審議ヲ續行致シマス——一松君

○一松委員 曩ニ古島委員カラ政府當局ニ質問ノアリマシタコトノ中デ、今一層明確ニシテ置ク必要アリト考ヘマスノデ、本法

案ノ第五條ト第十一條トノ關係ニ付テ、政府委員ノ御説明ヲ願ヒマシテ、實務ノ取扱

上誤ナキヲ期シタイノデアリマスガ、第五條ノ規定ニ依リマスルト、裁判所ハ調停ノ

申立ヲ却下スルコトガ出來ルト云フ規定ガアリマスカラ、問題ハアリマセヌガ、第十一

條ノ「調停ヲ爲サザルコトヲ得」ト云フ規定ヲ按ジマスレバ、調停ヲ爲サナイト云フコ

トハ、其ノ儘ニ握リ潰ス、斯ウ云フコトニ御解釋ニ相成ツタノデアリマス、サウ致シ

マスルト調停ノ申立ヲスルコトニ依ツテ、訴訟ハ一時中止ノ形ニナツテ居リマスガ、其ノ調停ヲ爲サナイト云フ、即チ握リ潰シ

ニ、其ノ決定ヲ、中止サレテ居ル受訴裁判所ニ通知ヲシ、受訴裁判所ハ其ノ調停ヲ爲サナイトノ決定ノ通知ニ依ツテ、職權ヲ以テ訴訟ノ進行ヲ開始スル、斯ウ云フ手續ヲ

執ルノデアリマセウカ、其ノ邊ヲ一ツ明確ニ御答ヲ願ツテ置キタイノデアリマス

○大森政府委員 御尤ナ御質問デアリマシテ、御質問ニ依リマシテ、私共今日實際ニ

取扱ツテ居リマスル手續ヲ、明確ニスル機會ヲ得マシタコトヲ喜ブ次第デアリマス、

御指摘ニナリマシタ本案ノ第十一條ノ規定デアリマスルガ、是ト同趣旨ノ規定ハ、借

地借家調停法ノ第二十五條ニ既ニアルノデアリマス、デアリマスカラ、立法ト致シマ

シテハ、此ノ借地借家調停法ノ第二十五條ヲ其ノ儘準用シテ置イテモ宜カツタノデアリ

マセウ、併シ本案ノ第五條ニハ特ニ「淳風ニ副ハズ」云々ノ申立却下ノ要件ヲ新ニシ

リマス、然ラバ借地借家調停法ノ運用ニ於テドウシテ居ルカト申シマス、只今御話ニアリマシタ通りニ、斯様ナ事由アリト調

停委員會デ認メマスル時ニハ、調停ヲ爲サザルコトヲ決メルノデアリマシテ、斯ク決

メルコトニ依リマシテ、調停事件ハ事實不能ニ依ツテ終了スル譯デアリマス、而シテ

此ノ不能ニ於テ終了シマシタナラバ、其ノ旨ヲ直チニ受訴裁判所ニ通知ヲスルノデア

リマシテ、其ノ通知ニ依ツテ受訴裁判所ガ從來中止ニナツテ居リマスル訴訟手續ヲ、

新ニ起スノデアリマス、裁判所カラ必ズ其ノ通知ハ致シマスルガ、若シ萬々一通知ガ

遅レマシタ場合ニハ、訴訟ノ當事者カラ其ノ理由ノ證明ヲ得マシテ、サウシテ受訴裁

判所ニ通知ヲスルト云フ途モ開カレテ居ルノデアリマス、何レニ致シマシテモ、此ノ事件終了ト同時ニ、受訴裁判所ニ其ノ旨ガ知レマシテ、サウシテ中止ニナツテ居ル訴訟手續ガ當然ニ復活スルト云フコトニ付

ニ申上ゲテ置ク次第デアリマス

○一松委員 御説明ニ依ツテ能ク分リマシタ、ソコデモウ一ツダケ伺ツテ置キタイノデアリマス、第五條ニ依リマス、申立却下ノ手續ヲスルコトニナツテ居リマス、第十一條ハ「調停ヲ爲サザルコトヲ得」トアリマスカラ、ヤハリハ調停ヲ爲サナイト云フ決定ヲスルノデアラウト思フノデアリマスガ、如何デアリマスカ

○大森政府委員 案ノ第十一條ノ場合デアリマシテ、是ハ調停委員會ノ仕事デアリマスカラ、所謂決定ト云フモノハ致サナイノデアリマス、併シ實質上記録ニ殘シマス書キモノハ無論スルノデアリマシテ、裁判所デアリマセヌカラ、決定ヲシナイト云フ形式上ノ差違ガアルダケデアリマス

○一松委員 サウ致シマス、調停ヲ爲サナイト云フ意思表示ダケヲ書面ノ上ニ現シテ居ル、斯ウ云フコトデアリマスカ

○大森政府委員 全ク御説ノ通りデアリマス

○一松委員 第五條ハ其ノ調停ノ申立ガ裁判所ニ出タ時ニ、調停ノ方デ、是ハ淳風ニ副ハズ又ハ權利ノ濫用其ノ他不當ノ目的ニ出ヅルモノト認メタ時ハ、受付ヲセズ直ニ却下ヲスル、ソレカラ第十一條ノ方ハ受理致

シマシタ時ニ、淳風ニ副ハズ又ハ權利ノ濫用其ノ他不當ノ目的ニ出ヅルモノト直ニ認メナカツタ故ニ、一應受理シタケレドモ、受理シタ後ニソレガ第五條ノ事由アリト認メルニ至リタル爲ニ、調停ヲ爲サナイ、斯ウ云フヤウナコトニ解釋シテ宜シイノデアリマスカ

○大森政府委員 御説ノ通りデゴザイマス

○牧野委員長 是ニテ御通告ノ質問ハ全部終了致シマシタ、質問終了ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○牧野委員長 ソレデハ質問終了トシテ、討論ニ入りマス——伊藤君

○伊藤委員 私ハ立憲民政黨ヲ代表致シマシテ、本案ニ賛成ノ意ヲ表スルモノデアリマス、唯此ノ人事調停法ナルモノハ、民法

ニ於ケル親族、相續編ノ不備竝ニ恩給法ノ缺陷ヲ是正スル意味ニ於テ、提案セラレタルモノデアリマスカラシテ、當局ニ於カレマシテハ一日モ早ク此ノ民法ノ不備缺點ヲ是正スル爲ニ、來議會ニハドウシテモ此ノ改正法律案ヲ提案セラレシコトヲ要望スル者デアリマス、而シテ一方又恩給法ノ不備缺陷ニ付キマシテモ、當局ニ於カレテハ恩給局ト御相談ノ上、一日モ早ク其ノ不備缺

點ヲ改正スル所ノ法律案ヲ提案セラルルヤウ、御盡力ヲ願ヒタイト思フ者デアリマス、願クハ委員長モ此ノ委員會ノ空氣ヲ委員長報告ノ際ニ織込シテ、本會議ニ於テ報告セラレシコトヲ望ミマシテ、賛意ヲ表スル者デアリマス

○山本(考)委員 本員モ本案ニ賛成ノ意ヲ表シマス、只今モ討論中ニ御説明ガアリマシタ通りニ、本案ハ法律關係ノミヲ目標トシテ生レタモノデハナイノデアリマス、法律關係ヲ離レマシテ、一般家庭内ニ於ケル紛議ヲモ解決シヨウト云フノガ目的デアリマスルカラ、民法ノ改正、其ノ他ノ法律ノ改正ト別箇ニ考ヘル必要ガアルコトヲ、本員ハ認メルノデアリマス、殊ニ事變ノ影響ヲ受ケマシテ、事變關係ヲ繞ツテ各家庭内ニ起リマスル紛議ハ、是ハ銃後ノ務ト致シマシテモ適切ニ解決シナケレバナラス、斯様ナコトモ本案ノ使命ノ一ツニナツテ居ルノデアリマスルカラ、左様ナ觀點カラ本案ノ成立ニ賛意ヲ表スル者デアリマス、併シナガラ只今討論中ニ御説明モアリマシタ通り、此ノ家庭内ノ紛議ノ起ル原因ノ最モ多クハ、先般政府委員カラモ説明ガアリマシタ通り、現行法規ノ中ノ相續法、相續財産ノ分配、ソレカラ婚姻制度ノ現狀ニ即セナイ

點、是等ガ主トシテ紛議ヲ醸ス原因ニナツテ居ルノデアリマスカラ、本案ハ本案ト致シマシテ、別ニ此ノ民法ノ改正ト云フコトニ付テハ、全力ヲ擧ゲテ御努力ヲ繼續シテ戴キタイノデアリマス、司法制度ノ理想カラ申シマスレバ、法律ヲ完備シテ、權利義務ノ關係ヲ明確ニシテ、サウシテ裁判所ノ救済ガ仰ゲルト云フ所ニ、司法制度ノ理想ガアラウト思フ、サリナガラ本案ハ權利義務ノ關係ノミナラズ、一般ノ紛議ヲモ調停シヨウト云フノデアリマスカラ、ソレト別箇ニ考ヘテ本案ノ成立ヲ希望スル者デアリマス、サリナガラ紛議ノ大多數ガ法律ノ不備カラ生レルト云フコトデアリマスレバ、此ノ法律ノ改正ニモ亦政府ハ全力ヲ擧ゲラレナケレバナラス、斯様ニ考ヘルノデアリマス、結局伊藤君ノ御説ト同ジ論點カラ本案ニ賛意ヲ表シマス

○石坂委員 私ハ第一議員俱樂部ヲ代表致シマシテ、本案ニ賛成ノ意ヲ表スル者デアリマス、私共現在ノ銃後ニ於ケル色々ノ紛爭葛藤ノ實情ニ付キマシテハ、聊カ承知致シテ居ル者デアリマスケレドモ、慮ル所アリマシテ其ノ具體的ノ事實ヲ指摘致シマスコトハ、質疑ニ際シテモ差控ヘマシタシ、尙ホ討論ニ際シマシテモ其ノ事ハ申述ベル

コトヲ差控ヘタイト存ジマス、要スルニ本案提案ノ理由書ニアリマス如ク、家庭ノ紛議ニ付テ調停ノ方法ニ依ツテ之ヲ解決スルト云フコトハ、我國ノ淳風美俗ニ鑑ミテ必要デアルバカリデナク、現在銃後ニ起ツテ居ル色々ノ事實ニ鑑ミマシテ、洵ニ必要ナ制度デアルト考ヘマスガ故ニ、之ニ賛意ヲ表スル者デアリマス、唯私モ本案ニ賛成スルニ當リマシテ、若干ノ希望ヲ申述ベタイト存ジマスルガ、其ノ第一ハ此ノ法案ノ運用上ニ付テノ希望デアリマス、一ツハ此ノ法案實施ノ結果ニ鑑ミラレマシテ、尙ホ強制調停ノ制度ヲ附加スルコトニ付テ、當局ノ御配慮ヲ煩ハシタイト云フコトデアリマス、此ノ點ニ付キマシテハ質疑ノ際ニモ簡單ニ意見ヲ開陳致シテ置キマシタノデ、再ビ此處デ繰返スコトヲ避ケタイト存ジマスガ、私ハ質疑ノ際ニ申上ゲマシタ通りニ、先ヅ第三者ノ公平ナル立場カラ、大乗の見地カラスル所ノ強制的調停ガ、結局必要ニナツテ參リハシナイカト云フコトヲ痛感致シテ居リマス、ソレガ一ツ、尙ホ第九條ノ調停委員ニ關スル希望デアリマスガ、調停委員ハ第九條ニ示シテアリマス通りニ、德望アル者其ノ他適當ト認ムル者ニ就テ選ブ、而シテ其ノ當局ノ御方針ニ付キマシテハ、質疑

應答ノ際ニ具サニ御説明ヲ承リマシテ諒承致シマシタ、唯私ハ其ノ中ニ就キマシテ、實際調停主任ガ指定セラレル場合ニ於キマシテ、願クハ其ノ地方ノ人ヲ當該事案ノ調停委員トシテ御指定下サルコトガ、適當デハナイカト考ヘルノデアリマス、例ヘバ同ジ縣下ノズツト東ノ方ニ起リマシタ事案ノ調停委員ガ、西ノ端ノ方ノ德望アル人デアリマシテハ、其ノ問題ノ當事者ハ其ノ人ガドウ云フ人デアアルカ、ドウ云フ程度ノ德望ノアル人デアアルカト云フコトハ、必シモ存ジナイ場合ガ多カラウト思ヒマス、其ノ地方ノ人デアリマスルナラバ、ヤハリ事情ヲ具サニ承知致シテ居リマスルノデ、適當デアラウト思ヒマスカラ、是等ノ點ニ付テ尙ホ當局ノ御配慮ヲ煩ハシタイノデアリマス、更ニ大キナル問題ハ——是ハ本案自體ニ關スル希望デハゴザイマセヌガ——只今伊藤君カラモ仰セニナリマシタ通りニ、根本的ニ我國ノ私法「プリヴァト・レヒト」トノ關係ノ改正ノ必要ガアル、申上ゲルマデモナク此ノ法案ハ、一種ノ手續法タル調停制度ノ規定デアリマスガ、此ノ調停ニ依ツテ事案ヲ解決シヨウト致シマシテモ、基準トスベキ實體法ノ改正ガ伴ツテ居リマセヌガ爲ニ、權利ノ歸屬、其ノ準據スベキ所ガナイト云

フ結果ニ陷ルノデアリマス、此ノ點ニ付テハ最モ必要デアリ、最モ急速ニ法律ノ改正ヲ痛感致シテ居ルノデアリマス、即チ現在ノ私法殊ニ民法ハ、歐羅巴ノ思想ヲ採入レマシタ個人主義ノ思想ヲ基調トスル所ノ法律デアルト云フコトハ、私カラ申上ゲルマデモナイコトデアリマス、即チ其ノ根本ノ基調ハ所有權ノ觀念ト契約自由ノ原則ニ基イタモノデアアル、現代ニ於キマシテハ、所有權ニ對スル觀念ガ著シク其ノ考ヘ方ガ違ツテ來テ居リ、又違ツタ考ヲ以テ臨マナケレバナラヌヤウナ狀態ニナツテ居ルノデアリマスカラ、其ノ改メラルベキ所有權ニ對スル所ノ觀念ト、我國固有ノ家族制度、我國固有ノ淳風美俗ニ則リタル親族法、相續法ノ改正コソハ、洵ニ急務中ノ急務ナリト考ヘテ居ルノデアリマス、隨ヒマシテ此ノ點ハ伊藤君御所論ノ如ク、モウ既ニ綱領モ出來テ居ルコトト承ツテ居リマスノデ、大臣モ言ハレル如ク速ニ再檢討ヲ試ミラレテ、次ノ議會ニハ是非トモ御提案ガ望マシイノデアリマス、又伊藤君ノ御所論ノ通り、恩給法ノ改正ノ問題モ、其ノ手續規定ガ改正ニナリマシテモ、準據スベキ法律ガ改正ニナラナケレバ、實際ノ效果ガ擧ラナイト言ハレタノト同様、恩給法

改正ノ必要ハ、先日ノ質疑應答ノ際ニモ恐ラク當局ハ之ヲ認メラレテ居ルコトト存ジマスノデ、速ニ之ニ對スル改正案ヲ決セラレマシテ、議會ニ御提案アラフコトヲ要望致シタイノデアリマス、次ニハ銃後施設ノ完璧ノ問題デアリマス、是モ具體的ノコトヲ色々申上ゲルコトハ差控ヘマスルガ、要スルニ一方ニ於テハ法律制度ニ依ツテ出來ルダケ事件ノ解決ヲ速ニシ、且ツ完全ヲ期シマスルト同時ニ、ヤハリ銃後遺家族ノ強化、其ノ強化ノ方法ハ法律的バカリデナク、淳風美俗ニ則リ、又道德的ニ強化スルコトヲ指導誘掖シテ行クコトガ、極メテ必要デアラウト考ヘマス、同時ニ私ハ銃後ニ起ツタ色々ノ問題ノ實情ニ鑑ミマシテ、其ノ銃後家族ノ周圍ニアル所ノ近隣各ノ人ガ、自省自肅シテ、眞ニ銃後ノ完璧ヲ期スルヤウニシナケレバナリマセヌガ、斯様ナル點ニ付キマシテハ、司法當局ハ勿論厚生省其ノ他ノ官廳ト協力シテ、善處セラレシコトヲ要望致シタイノデアリマス、最後ニ私ハ質問ノ際ニ、司法大臣ニ御同致シマシタ通り、司法人事ノ刷新、司法官竝ニ書記ノ待遇改善ニ付テ、格段ノ御配慮、格段ノ御處置ヲ強く要望致シタイノデアリマス、司法官ノ實情ニ付キマシテハ多ク申シマセ

ヌ、既ニ當局ハ御承知ニナツテ居ルコトデアラウト思ヒマスノデ、是非トモ此ノ人事ノ刷新、司法官竝ニ書記ノ待遇改善ト云フコトニ付キマシテ、時局多端ノ折柄デハアリマセウケレドモ、切ニ希望致シタイノデアリマス、以上數箇ノ希望ヲ申述べマシテ本案ニ賛成ノ意ヲ表シマス

○牧野委員長 菊地君

○菊地委員 私ハ社會大衆黨ヲ代表致シマシテ、本案ニ賛成ノ意ヲ表スル者デアリマス、私共ハ此ノ種ノ調停法ノ出ヅルコトヲ、長イ間待望シテ參ツタノデアリマス、特ニ支那事變ガ勃發シテカラ、戰傷病死者ノ遺家族ノ間ニ、或ハ民法ノ缺陷ニ因リ或ハ恩給法ノ缺陷ニ因リマシテ、利害ノ衝突ヲ來シマシタ忌ハシキ事實ヲ、度々私共ハ見聞致シマシタノデ、是等ノ忌ハシキ事柄ヲ一掃スル爲ニ、此ノ種ノ法案ノ一日モ早く實現セラレンコトヲ、待望シテ參ツタノデアリマス、唯本案ノ趣旨徹底ヲ期スル爲ニ、左ノ如キ希望條件ヲ附スルコトハ極メテ重要デアリ是ガアツテ初メテ本案ノ完璧ヲ期セラレルモノト信ズル者デアリマス、希望條件ヲ申上ゲレバ

一、政府ハ民法親族編相續編ノ改正案ヲ次期議會ニ提出スベシ

昭和十四年二月十五日印刷

二、裁判所構成法、人事訴訟手續法ヲ改正シ家事審判所ヲ設クベシ
三、本法第五條ノ適用ニ當ツテハ濫用ニ陷ラザルヤウ注意スベシ
四、本法ノ趣旨ヲ徹底セシメ、調停ノ效果ヲ發揮セシムル爲ニ委員ノ選任ニ付テハ特ニ意ヲ用ヒ、調停事件ニ認識深キ有能ノ士特ニ婦人ヲ多く採用サレンコトヲ望ム
以上ノ希望條件ヲ附シマシテ、本案ニ賛成スル者デアリマス

○牧野委員長 田川君

○田川委員 私ハ御採決ノ際ニ起立シテ賛成ノ意ヲ表シマス、隨テ此ノ際ニ賛成ノ言葉ヲ述べルコトハ致シマセヌ

○牧野委員長 外ニ御通告モアリマセヌカラ、討論終結ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○牧野委員長 然ラバ是ニテ討論ヲ終結致シマス、採決ヲ致シマス、本案ニ賛成ノ諸君ハ起立

〔總員起立〕

○牧野委員長 起立總員、仍テ本案ハ可決セラレマシタ

〔拍手起ル〕

○鹽野國務大臣 本案ニ付キマシテハ、委

昭和十四年二月十六日發行

衆議院事務局

員各位ニハ極メテ御熱心ニ御審議下サイマシテ、茲ニ可決ニ相成リマシタルコトハ深ク謝意ヲ表スル次第デアリマス、尙ホ本案ガ成立致シマシテ實施ニナリマスル曉ニ於テノ其ノ運用ニ付キマシテ、種々御希望ノ簡條モゴザイマシタ、努メテ之ニ副フヤウニ致シタイト存ジマス、尙ホ基本法デアリマスル民法ノ親族相續編ノ根本的改正ニ付キマシテハ、目下司法省內ニアリマスル朝野ノ權威者ヲ集メタ會議ニ付セラレテ居リマス、一應ノ案モ出來テ居リマスルガ、今年中ニハドウシテモソレヲ成立セシムルヤウニ、努力ヲ致シテ居ルノデアリマス、是モ省內ノ官吏バカリデナク、只今申上ゲルヤウニ他ノ朝野ノ人々モ集メテ居リマス

シ、將來ノコトデ責任ヲ以テ明言ヲスル譯ニハ參リマセヌガ、明議會ニハ是非トモ出シタイト考ヘテ、努力ヲ致シテ居ルヤウナ次第デゴザイマス、其ノ他色々御同情アル御希望モアリマシタ、何レモ之ニ對シテ努力ヲ致シマス、今後トモ本案ニ付キマシテハ、多大ノ御支援ヲ願ヒマス〔拍手〕

○牧野委員長 委員長ヨリ特ニ委員諸君ノ御精勵ニ向ツテ、此ノ際敬意ヲ表シマス、外ニ御發言ハアリマセヌカ——此ノ委員會ニハ滿洲國ノ領事裁判撤廢ノ法案ガアリマ

スケレドモ、是ハ何レ期日ヲ決メテ審議致シタイト思ヒマス、本日ハ是ニテ散會致シマス
午後二時十分散會

印刷者 内閣印刷局